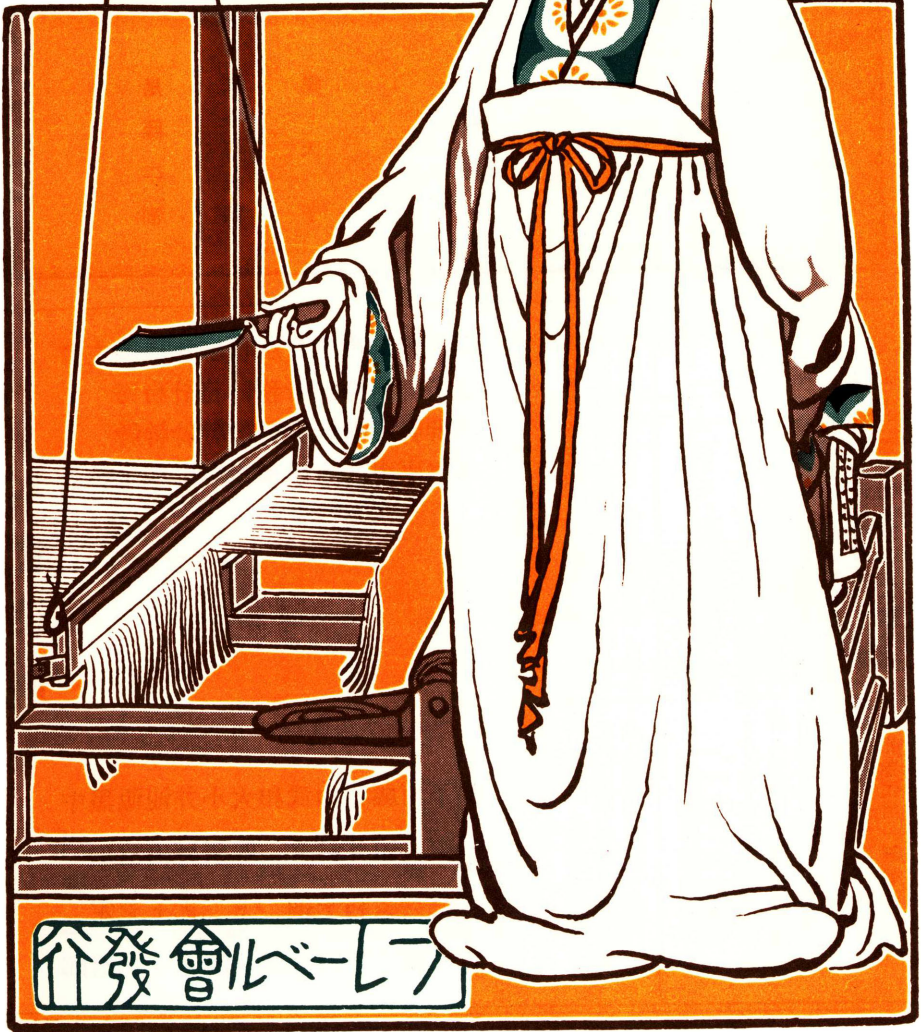


幼 兒 教 育 研 究 雜 誌

母 子 と 女 奴

第 十 卷  
第 二 號



フ ー ベ ル 會 發 行

第拾卷第拾貳號目次

○道	尾藤二洲
○女學生と結婚	武谷等氏談
○感じたるまゝ	樂天子
○人となれ	Y K 生
○保育叢談	光藤夫人
○齧齒の原因	
○薔薇の話	樂川生
○此の頃の御料理	
○雑録數件	

本會役員

編	庶	會	庶	會	庶	會	庶	主
輯	務	務	務	計	計	計	務	務
幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹	幹
事	事	事	事	計	事	事	事	幹
長								

和 下 雨 福 藤 山 武 和 大 小 井 池 飯 黒 中  
 田 森 田 井 村 井 田 關 關 村 田 沼 田 川  
 た ふ 利 十 綱 ト ク ト シ 定  
 實 づ 釧 く 譽 野 枝 藏 ヲ 清 ニ ヲ ヅ 治 郎

質問規定

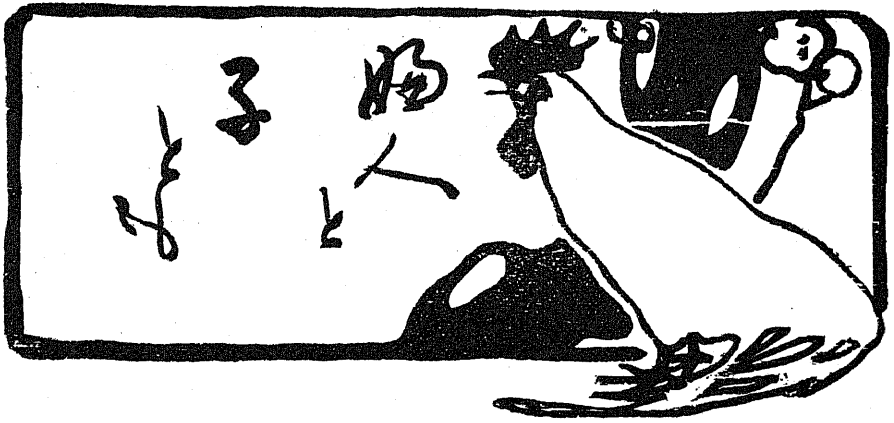
本會は讀者の種々なる質問に應じます婦人と子供と家庭とに關する事なら何でもお尋ねなさい。往復はがきか又は返信料封入ならば早速に御答します。公衆に有益だと思ふことは誌上で説明します。

入會又は購讀手續

(振替口座東京 一七二六六番)

本會に御入會なさうとする方は會費一ヶ月金十錢の割合で一ヶ年分をまとめて振替貯金へ御拂込下されば直に登録して雜誌を發送致します。會員にならずに雜誌だけ讀みたい方は此の割合の前金で本會か又は賣捌書店へ御便宜御申下下さい。

- ◎一冊郵税共金拾壹錢
- ◎六冊前金郵税共金六拾錢
- ◎十二冊前金郵税共金一圓拾錢
- ◎郵券代用一割増



## 號二十第卷拾第

道

尾藤 二洲

道とは自然の則なり。人倫事物すべて皆自然に宛ある可し角あるべしといふ則ありこの則は人の共に由りて行ふ可き者なるゆゑ行路の意にて道とはいへるなり。凡天下の萬事萬物一つとして則なきはなし。大なるものにて云へば父は父の則あり子は子の則あり、君は君の則あり、臣は臣の則あり小き者にていへば視には視の則あり聽には聽の則あり持には持の則あり行には行の則あり近くは一身一家より遠くは四海萬邦に至るまで皆然らざるはなし、都てこれを人道と云ふ。人の禽獸と異なることはこの道あればなり。是れしかなながら天地の自然、吾が性の固有にして人の作り出せるものにあらず、されば天理と云ふなり。

# 女學生と結婚

武谷等氏談

結婚は人生の花であると共に、又終生の苦樂の分水界の如きものでありますから決して輕卒に取り定める性質のものではありません。

▲氣長に改良結婚は其の當の本人は勿論、父母近親も出來得る丈け周到な注意をしなければならぬ事です、處が實際に於ては所謂見損ひをし、合縁氣縁と云ふ格で、目出度く高砂を祝ひ納め、申分無く四海波靜かに結ばれた結婚が、思ひの外脆く破壊する事實に逢着することか、世間には往々あります素よりこれは社會の習慣が宜く無い所から、不吉な結果に了るものありませう、併し然うかと云つて日本在來の結婚方法を全然不可とし、一も無く二も無く高襟的に、歐米風を其儘我國の家庭に移すと云ふことは、尙更宜く無い許りか、顯る難かしい企てである、思ふにかゝる事柄は急激に革む可きもので無いから氣長に改良するの外

は無いと思ふ。

▲着眼すべき要點 結婚に就いての急務は、是から良縁を索めて結婚しやうとする當人の着眼すべき點で、之れが最も大切な問題であります、十人が十人、皆がさうと斷定するものではありませんが、兎角若い婦人は容貌許りを喧しく有仰つて、結婚の一大要件の様に過重視する事は、人情として無理ならぬ事ですが、先づ大抵な處で我慢した方が宜しいと思ひます、何んとなれば夫婦の愛情は容貌の美醜に毫も何等の關係が無いのを以つても判ります、ですから矢張り末長く同棲するのには決して容貌などには何等の關係も何等の不都合も認めませんし、其上一向何の不自由も感じ無いのであります、それよりか同棲する段になつて困る事は互につまらぬ事や、氣に入ぬ事などを言つたり、爲たりする様な事がある様では、曩に清しいと見惚れた目も小さくなり吃と締つた口元も物凄く見え出すものであります、之に反して始めは下り目で、低い鼻、厚い唇、よくも、麼慥に醜い人と一所になつたものだ、吁情無い運命だ、實に千

載の不覺、一生の失敗であつたなど、思つて居たものが段々月日が経つに連れ其の言語動作が悉く我が意に叶ひ、遂に一轉して俄に愛すべく、尊ぶ可き尊敬が起る様になる例が幾らもあり、これは當に夫婦間許りで無く友達などの間にも随分ある事ですから、人の選擇に就ては、極めて慎重な態度が必要であります、況んや結婚に就ては猶更の事であると思ひます、要するに精神の美は終生の事で、身體の美は一時的であります、而して精神の美は、身體の美に比して遙かに優越して居る事は誰れしも異論の無い事と思ひます、身體美の缺點は容易に精神美で補足する事が出来るものです、

▲老後の考へ 前に述べましたのは反對に、時分(女子)の方が假に縹緲が醜とした場合には、いくら夫に愛情を擧げて、遂に非常に悲觀するやうな事が出来、縦令それ程迄の事が無いにしても互に感情の衝突は免れない、然うして夫婦が面白くなく暮すと疑心暗鬼を生じて嫉妬の標的となる實例は随分世間にある事です、殊に年を取つて互に相扶け合つて行く様になりますと、それこそ全

く最初結婚當時に、唯一の理想として居た容貌などは殆んど眼中に無くなるものです、そこで是れから良縁を索めやう、結婚して一家を整へやうとする女學生諸子が容貌と云ふ事を結婚の最大要件とする事だけは甚だ面白く無い事と思ひます。

▲家門の貧富 尙ほ容貌に次いで心得て置くべきは、家内の優劣、貧富貴賤をかれこれ云ふ事です、これは若い人よりも却つて老人の頭に有り勝ちな通弊であります、尤も家柄や地位が良いに越した事は無い、上流の人達は優美で、高尚であるから多くの人から貴ばれ、儀式的の尊敬を拂はれます、又財産は生存上、文明の進歩に連れ益々必要であります、然うかと云つて餘り財産を過重視するのは宜しく無い許りか、徒に權門に媚びたり財力に屈從する人物程、心の下劣なもので、男の癖に身に綺羅を着け、他目を胡魔化して密かに不徳の行ひを敢てするやうな柔弱男子を夫に持つて、暗い人の陰に哭いて居る婦人は、蓋し妙く無いと思ひます、實際に平和な圓滿な生活を送つて、道徳上批難の少い人は、確かに上流社會よりも、下等

社會よりも中流社會に多いやうです、ですから家門とか財産とかを、過重視するのは、何の方面から見ても餘り感心した事ではありません。

▲人物を選べ 然らば結婚する間に、最も尊重すべき必要な條件は、何んであるかと云ふに、それは言ふ迄も無く、未來の夫と定むべき男の人物如何に注意すべき事であり、併し殆んど理想に近い人物を得る事は、餘程難かしい事で、家門として、財産などの調べに比べると頗る容易でありません、尤も人物の選定は、自分だけの考で、獨りで定めるは以ての外の所置かと思ひます、恚う云ふやうな大切な事柄は、充分父母親戚知己や先輩などに打ち明けて、其意見を叩くことが必要であります、俗に三人寄れば文珠の智恵と云ふではありませんかどうしても物事は、何事に依らず、一人よりは二人、二人よりは數人、氣の合つたものがあつた丈の恵智を絞つて、互は商議して決定するに越した事はありません、斯うして定めたる結婚は、先づ九分九厘迄成功しませう、例之全く見當が狂つたにしろ烏と鷲は違ひません、夫れ

が現在の女學生は、社會の事とか家庭の事などに、全く素人同様丈に考へが獨り天狗になつて居ても、彼も自分の事は自分で選擇した方が宜い杯と自分許免で人生の最も大切な結婚を輕々しく決行するものが多いから、遂に破鏡の嘆に泣くやうな事が持ち上るのです。

▲年の違ふ夫婦 故に若氣の向ふ見ずの事をすより、他の人々に相談した上で、其の意見に服従した方が安全かと思ひます、西洋の婦人は自分勝手の意嚮によつて結婚を定めるやうな事は、決してありません、必ず先づ兩親や兄弟や朋友等の意見を聞き、宛で石橋を叩いて渡ると云ふ風であります、又彼の國の習慣として、其間に或制裁があります、さうは勝手氣儘が出来ない様になつて居ます、さうは四十歳以上の花智があります若これが日本から、四十歳以上の花智があり居ます若これが日本であります、随分可笑しく思ひませう、併し彼方では四十歳の花智と、二十歳前後の花嫁とが結婚して睦まじさうに公園などを散歩して居るのを見る事は普通であります、思ふに是等は、一つは

生活の困難な故もありませうが、中には随分地位もあり財産もある婦人でありながら、猶且つ自分よりは二倍以上年齢を取った人と結婚する人を澤山見受ます、詰りこれは人物の選擇に重きを置き過ぎる結果であります、勿論年齢も餘り相違の無い方が宜しいけれど、人物の選擇は、宜しく西洋婦人を手本とすべき事です、さすれば財産も地位も思ふ通りに得られ、一生を安全に幸福に送る事が出来ませう。

▲性質の配合 さて人物の選擇は云ふ迄も無く自分の現在の地位と、境遇とを顧みて、其の上で種々な嗜好などを調べ、俗に似たもの夫婦と云ひますが寧ろ性質は全く違つて居る方が、却つて好い場合が多いのです、最も斯る事柄は、全く一概には云へませんが、一例を擧げて見ますと、夫婦の間でも朋友の間柄でも、悠長な者には夫れと反對に短兵急な者が、極めて克く調和して行きます、それと同じ譯で、夫婦間に於ても、然う云ふやうな配遇を得たならば、家庭は實に圓滿に治つて行くでせう、是れを約言すると、夫婦は互に自己の

短所を自覺すると、同時に、他の一方には彼の長所を認識しなければなりません、夫が精神を過勞する職業であつたらば、妻はなるべく、平坦な精神生活をした方が、當人同志の爲めにも善いと思ふ、歩深く進んでは、子孫の爲めにも善いかと思ふ、其他潔癖同志、無頓着同志、交際好き同志等の夫婦は初めから意氣が克く投合し融和する事でありませうが、却て永い間には宜しく無い場合の方が

多いのです。  
 ▲結婚は義務 結婚は一面に於て人間の義務であります、吾人は自己の心身を祖先から承けたので自己も又子孫に心身を傳へなければ濟みません、併し萬已むを得ない事情のある外は、必ず結婚をしなければなりません、結婚の必要な事は、獨身生活の人に就て見ても弊害の有る事が判ります、即ち獨身者は情愛の薄い冷酷な猜疑心の深い、底意地の悪い人が多いのです、そこで女學生諸君は云ふ迄も無く、既に學校を卒へて家庭で家事の経験を積まれて居る諸嬢は、苟も人間と生まれたい以上、是非共然るべき夫を迎へ、男子の助力を仰ぐ

可きは勿論、女子としての義務を盡さなければならぬ、結婚する前には極めて周密な注意をして、詰らぬ事に耳を傾けず、又他人に煽動されぬやうにして、良縁を索める事が大切で、最後に花嫁が夫に對する注意をざつと云て見ますと、

一、善く貞操を守り、苟にも愛を二三にす可ず、夫の業務を知り、苦心を察し、嗜好を慮り慰藉に勉めよ。

二、能く内を治め、夫をして内顧の憂いながらしめよ。

三、敬を守り、愛に裏る可らず。

四、些細の事に悲み啣ち、不快不幸をもらす事ある可らず。

五、家庭の秘事を語る可らず。

六、熱誠を盡せ、假りにも冷淡なる可らず。

七、嫉妬は悪しからずと雖も、其度を過せば愛を損じ、害を醸す事あり。

八、心に無念と思ふ事ありとも、外に對しては夫の面目を保て。

(時事)

感じたるまゝ

樂天子

世の兒童を教育すると云ふことは、只口の先でいふて聞かすといふばかりのものではありません、平たくいへば見習はせると云ふことが大部分含まれて居ります、そこで小學校の先生杯は、いくら學者でも、小供を見習はせるに適當な人下なければ駄目です、口のきき方が柔しく綺麗で、人の扱方が上手で、起居動作から氣質までが、悉く見習ふに足る先生でないといけません、殊に幼稚園や尋常一年の先生は格別さうなければならぬ、幼稚園に入れやうといふ方が數の敷へ方なりとも、今頃から覺えさせて學校に上る時の補助にしようとか、家庭で、八釜しいから只遊ばせにやりたいと云ふやうなお考だと、大變な間違なのであります、又子供を充分見習はせるに足る幼稚園をお選びになりませんと、四五才六七才までに見習つた事は中々改めやうとしても六ヶ敷のであります、



ですから幼稚園で少し活潑過ぎるやうに育つた子供は學校では實に先生泣かせであります、そこでよくない幼稚園ならば寧ろ入園させぬ方が子供將來の爲めになります、是等に就ては面白い實例もあり、又私の數年間の經驗を踏むで來た事であり

ります。斯く述べしごとく幼時の見習子供の腦裡に映ずる事と云ふものは實に恐るべき程のものであつて、まだ二つである、三つにならねば何にも分らぬ、口も利けぬ内から、善惡の言ひ聞かせや、行ひ方などが分るものかと云ふ様な間違は多くの家庭に有り勝な事柄であつて、之が即ち子供保育の上で大間違を來す根本的原因であります、皆様が御承知の通り近來は胎内教育といふことさへ盛んに申すではありませんか、胎兒が親の思慮感情動作までを感染して離體するといふではありませんか、教育學上でも八ヶ間敷い問題なのであります、なとか眼より映じ、耳より應ずる年余を経過生育したる幼兒に於て、感應なしと云ひ得ませうか、目から映つて眞影された父親の動作とか、耳から應

じて彫み込まれた母親の言語とかいふものは誠に新しき柔かなる幼兒腦裡の影寫盤に、濃く明瞭に深く巧妙に、映り、彫まれて、小學時代から中學高等女學校時代と、追々に、其の寫された者は、幻燈となり、活動寫眞となつて現はれ、其の彫み込まれた者は之が即ち蓄音器となつて現はれるのであります、無意識の内に注入された事は又無意識に現はれ出るのでありますから實に恐ろしい事でありませう。八つ頃から十才以上となつて少しは物の善惡長短が分つて來てから見たり聞いたりした事は、悪い事と思へば行はぬのでありませう、夫でも良くない事は見せぬがよい、聞かさぬがよい、悪い事だと必ず陰で行つて見たがる、好奇心に富むで居る子供には中々其督監は六ヶ數のであります、だからして良くない事を見たり聞いたりした時には充分戒めて、人たるものゝなすべき事でないといふことを會得せしめ、且つそれらの眞似をすると結果がどうなるといふことまで充分承知させ、善惡の境目を明にせねばなりません。以上子供目や耳に入る事柄に就いては、充分注

意しなければ、中々人間といふ人間は育てられぬものであります、能く無い習慣の多くは両親から見習ものである、私は平伏して新聞を見る悪習慣があります、所が今年三才になる小兒が繪本を見るに必らず平伏して見る、妻がいけませぬと叱れば『トウチャマガ』とやらかす、父様の眞似をして夫れが本統の読み方、見方と承知して居る、實に驚き入てこの頃は成るべくと我慢致しますが、必らず子供は見習ふもので誠に恐るべきことであります、自分は寝て讀んで子供に起きて讀めと教へられるものではない、無理な注文である、之が口で教へると云ふので最初述べました様に効力のない教へ方です、どうしても子供の前では見習はすべく矢張り旦座して讀んで見せねばならぬ、子供を持つた父や母、又は多人數を教育監督するものは仕方がない、夫を出來ぬとなら子供を造らぬがよい、親たる資格がない、教育者監督者たる資格がないと斷言するに憚らぬのであります、下女が起きて御飯の仕度から愛兒の世話、且つは學校行の用意までする、中流以上の家庭にも澤山ある、この家庭が

其の愛兒成長の後に親の名譽、家の資格を汚す人物を作り出すのであります、寢床の中から下女に命を下して『時間だよ若様に御飯をお上げよ、おかすが間に合はねば上の戸棚に鐘詰を買つてあるよ』と御命令の下るのを私は聞た事がある、私はかゝる家庭が間々あることを信じますが、之等が皆親が子に將來の不品行を教ふるもので、元來下女といふものに我愛子を託して學校行の準備までをさすべき者でない、大切な子の頭腦を作るために出掛ける準備などは親が直接にしてやつて、能く教はつてお歸りよと一言の重味をつけて送り出す位でなくては子供の頭に何が止りませう、こんな事を輕薄に考へて、暖かい床の中から冷かな命令を發して間接に我子の世話をするやうな親達こそ我輩の目から見ると、玩具に作つた人形の様で、下女をしてあやつらさせ、お樂みになさるやうに外見えませぬ、何も酷評ではありますまい。

人となれ

Y K 生

人間の勉むべき事で何が一番大切でありませうかそれは疑ひもなく「人となれ」と云ふ事です、信玄の歌に「人多きの中にぞ人はなき人となれ人となれ人」と云ふのが御座ります、又西洋の言葉に Let me first be a man. と云ふのがあります、東西所を異にし時を異にしてもなほ「人となれ」と云ふ事は同一であります、我々は「人」とならんか爲めに學び人とならんが爲めに生くるものであります、近來科學の進歩につれ人も亦單細胞より進化したる一動物に過ぎず人と猿とは密接な關係にたつと云ふ事は種々なる方面より立證されもはや争ふ餘地もない事實であります、然かもなほ私の耳には「人」と云ふ言葉と「猿」「犬」など云ふ言葉などとは全く別に異様にひびきます、「人」それは萬物の靈長として誇る可きものでせうか、「人」それは大宇宙を支配する權力を持つて生れて來たもので

せうか、それについて私は全く知りません、たい私には常に「人となれ」と云ふ言葉の下に奮闘し努力する運命になつてきたものと信じます、「人」と云ふ意味は常に不完全不充分を意味して居ります、然しこの不完全不充分たるやいか程にても減少し得るものであります、人と神との距離は我々が考へ得るいかなる小さな距離よりも更にせまく近づく事が出来るものでありますがしかもなほ到底神となる可きものではありません、古來の英雄豪傑を神と尊ぶは所謂鷄頭の位置より牛尾の位置にうつすものでその人それ自身にとつては反つて不平かも知れませんが、都て多少の不完全不充分がある爲めに我々には向上があり希望があります、それは遂には限りなく神に近づき得る特權のあるものです、聖人格の満足を得ることの出来る幸福なる動物です、此の特權を放棄し、禽獸に近かつんとする人はありはしませんか、よし自分では近づくかなくも向上の坂は急でありませうか、行立は退歩であります、日に三度自ら省みて行をつゝしむると云ふかくの如き人は眞に「人」となるの道を踏んで

ある人と云はなければなりません、或人曰く是も  
 曉より始めよ汝の品性は甚だ不完全なり、汝の修  
 養は甚だ幼稚なり、先づ他人に云はんより自ら行  
 へし然し人は必ず自ら行ふよりより以上の事を  
 云ふものであります、己の行爲には寛にして他人  
 の行爲には嚴なるものであります、然かし相互に  
 誠め合ひ相互によりよき事を云ふは之れやがて向  
 上の第一歩ではありませんか、ソクラテスは善は  
 即利であるとしてそれは直ちに自分の行爲となつ  
 たのですこの三者の間に何等の衝突も牙楯もあり  
 ませんでしただ即ちソクラテスの人格の高かつた事  
 を證します、今日事實上善行をしても反つて不利  
 をまねいたと考へる事がありますそれは我々の修  
 養がたらず人格が不完全の致すところでありませ  
 しかもなほ衆人の前にたつては因果應報の理をと  
 き善因には必ずや善果ありされば我々は善を行ふ  
 べしと申します、即ち口だけではソクラテスその  
 人の人格に及んで居ります、口だけでもよろしい  
 遂には眞の人格も口につれて向上してゆくであり  
 ませう。

保 育 叢 話

光 藤 夫 人

皮膚病につきて

既に冷水浴及び温浴につきて其の肝要一日も  
 缺くべきものでない事を述べましたが、此の皮膚  
 病豫防としては、其の効が著しい事と存じます。  
 又鼻孔を明けるなども、尤もよき時機で御座いま  
 す、私共五兒が今迄に於て、種々な皮膚病にか  
 かつた事のないのは、大方此の二方法の賜物と存  
 じます、疾病に犯されるとか、不慮の災にかゝる  
 とかいふのは、始んど機微の間に其の原因があつ  
 て、誰れでも其の原因に氣がつく事ばかりはない  
 ので御座います。アイアノ子の病氣は何で起つた  
 か、ドーモ分らんといふ様な事が普通一般であり  
 易い。しかし其の不明といふのは恐らく私は其の  
 人の不明不行届を表證するのであらうと、存じま  
 す。眞に學識高遠に研究の度が深うありますれば  
 其の不明の語は漸時跡を絶つ様になりますの

で其の不明の言葉の多い人程深遠ならざる智識を備へて居る人ではありますまいか、マ―目に塵が入つたから眼が痛くなつた位ならば、母親と名のつく人でなくとも三歳の兒童もよく知つて目をこすりこすり其の原因を訴へますが、一寸何も分らぬのに、偶然齒が痛くなつた。サ―何も固い者はかまないので、何で齒が痛むかと迷つて居るものが多くつて、平素齒の養生と掃除をおろそかにせし結果とか、或は身心過勞の爲めに齒神經痛を覺えしとか、種々理を追うて判断して、其の治療を適當にし、延いては豫防をするといふ方針に出るものが少ない。だからいつでも痛くなれば其の當時は醫者よ薬よと大騒ぎするので大抵は不明の致す所であるとして私は信じます。

世の母様と仰がれて尊敬さるゝ人が、今少し此の不明を解決する事に力を盡されて、病氣にかゝつたからとて、心身を勞さるゝよりか、其の恐ろしき病氣にかゝらぬ工夫に心力を費さるゝ事が、大切かと存じます、サウ―いたしますと病氣にかゝらぬ様かゝらぬ様と、心配すると、却て病氣にな

り易いとか仰のある方があるかも知れませぬが、其處が常に大切な所で、常識と學識の肝要な所で御座いますよく、母としての活動をツイけて居ります間に細心事にふれて種々の研究をなす事が大切なので、よく落付を以て事に遭遇し之を研究しますれば、心自ら釋然として悟る所がある。

ので、其の愉快さは譬ふるに物が御座いませぬ。實際私共は病氣の事には暗い方で御座います故か、外なきまり切つた仕事をすより、此の病氣豫防などの事を難事に考へまして、常に兒をして疾病に陥らしめましますと種々工夫しますが、其かあらぬか此の頃では餘り病氣にかゝる事が少くなりなりました。

一國の主宰者に賢明な人を要するし、一家の主宰者として立つ主婦に、賢母良妻を持つとも、歸着する所は一つ皆よく一國一家の繁榮を圖らん爲で御座いますせう、一國一家の繁榮を圖るべき主權者が不明な人ではとても、其の成績を擧げる事は出来ません、一ヶ月六十圓の収入で、七人の生活で、其の出納を如何にするとか、家内の整頓とか、

すべて一家の事柄の複雑にして、多岐の中に私は此の不明といふ事が解決される事ほど困難で面白い事は御座いません。實際皮膚病なども一寸其の原因が分らない事が御座いまして、餘計な心配をする事も御座いますが、大抵外部の刺戟で發現する種類のものは、常に皮膚を強健にする事に力を盡して、併せて清潔にする様にすれば、其の害は免れる事と存じます、重ねて申し上げます、其を皮膚を強健にするのは冷水摩擦と温浴に過ぎたよい方法はありますまい。

愛兒の始めて入學する時の親心

長女が學齡に達しまして區役所からの通知もありました、親の身になつて見ますれば、ドーカ少しでもよい兒にしたい、よい人間に育て上げたいとはなべての情で御座いませう。マー少しでもよい學校に入れる方が子供將來の爲であらうと存じて高師の附屬校にお願する事に決めました。皆様御存じの通り、當校へ入學は中々六ヶしいので御座います、なせならば全國小學校の模範學校として

自他共に許して、居る事ですから少しでも、目のあいた、即ち我兒教育に心を注がる、中以上の家庭では、我先にと願書を差出す事で御座いますから。

如何あらんかと心配して居りましたが、願書を差出しましてから間もなく、保護者同道出校せよとの命に接しました。

當日子供を連れまして出校しました、男女七十人計り、父兄は皆愛子をつれて、其處にづらり、しばらくあつて、先生より、之れから、體格試験と發達試験とをいたしますからと順々に名を呼ばれます。

此の時私の胸はをどりました。今迄受験しました事、又師となりて生徒を試験しました事も、幾十度あるか分りませんが、凡そ今日位胸の動悸のひどかつた事はありませんでした、子を思ふ親の至情か、いづれの試験も皆無事結了しましたから歸途につきました。ア、嬉れし翌日入學許可の通達と共に一月廿八日出頭せよとの事。

雪解けのおしるこ見た様なドロ／＼した道を、あ

しだでやつと校門までつきました時には、已に何  
十臺の車は主人の件にて待つて居りました、新に  
開かれし校門からの道を奥にくとたどつて行き  
ながら、不圖左を仰ぎますれば、雲に聳ゆる若深  
の學びの舎の巍然として、そば立ち、幾多の老松  
は颯々と過ぎし昔を語る様に思はれました。轉望  
しますれば、附屬校の第三部が丁度食客かの様に  
悄然と控へて居りますが、師弟と共に手を下して  
培養されました花園の植物も、霜枯れで、あはれ  
が深う御座いました。

實に紅塵萬丈の都の眺めには、珍らしの景色とし  
ばし見とれて居りましたが、時の後れなば悪しか  
らうと急ぎ受付に参りましたらば、二階の會議室  
にと案内され、階段を昇ると少し先に、コートを  
脱ぎ給ふは、良人の同僚の奥様でありましたから、  
よい所でと二人連れ立ちて、會場に入りました。  
マー驚きましたと言ふよりは、むしろ非常な快感  
に打たれ何となく胸の底でホコリの囁きがします  
のは、保護者として來會されました幾十人が幾ん  
ど皆眞の父母様でゐりました事であります、私

其在職中かゝる會のある毎に、保護者を呼び出し  
ますと、大抵は父兄は來ないで、無責任にも程の  
あつた者、小僧か下女を代理として、寄越します  
ので、何を話してもチンプンカン、實にシヤクの  
種で御座いましたが、本校ではかくも父様母様の  
御來會になりますのは、一つは世の人が、教育の  
必要を痛切に感じた結果であると實にうれしさに  
堪へられませんでした、父君の方は大抵は多用  
の、外出の事と見えまして、母様が三分の二とい  
ふ勢で、丸髻束髪が打交じりて、いづれも、美を  
凝らし、研を競はるゝ中にも皆上品にと心掛けて  
ある、風姿のこの見ゆるは、他には見られぬ粧  
あと、床しく思はれました。  
後方の椅子に腰打掛けまして、髪結びぶりや、  
きもの、着方物の言ひ振りなど見て、一種の社會  
的觀察をはじめて居りますと、人生初老の域に達  
せられて、モ一中老に間のない髻の濃い主事さん  
がニコニコと入つて來られました、ついで三四の  
教育界に名うての人が椅子に寄られ、主事さんの  
談話が御座いました、其の要旨は

一、當校生徒の家庭は、大抵中流上流が多いので

自然家庭でも、召使などが多く見えまして子供自ら出來得る仕事を下婢に手傳はせて居らるゝと見えまして、ドーモンナ子に限つて靴のぬぎ、はき、も容易に出來ず、誠に都合で御座いますから、ドーカ召使は幾人居りまして、よく御父母で御氣をおつけになつて、出來得る仕事は子供自身にやらせて頂きたい。

二、

今一つは車夫附添の下女等で尤も御人選を願ひたいので御座います、車夫が車寄せで集りまして居ります中には賭博に類する事さへいたしまして、兒童に悪感化を及ぼします事は實に憂ふべき事と存じます、殊にかゝる悪車夫をして御愛兒に接近せしめられるのは危険な事があるかも知れませんが、だから御雇入れの際の御人選は勿論なるべく、どうか車夫附添は廢する方針を取つて、止を得ない場合には、車夫附添は時間限り送迎丈させられたいのであります。

三、

それから、本校はマー、他の學校とは違ひまして、普通の小學校は無論、他の各府縣の附屬校よりも、一步拔きんでたる特色があるの職員は皆専心模範學校として耻しからぬで、成績を擧げようと、非常な努力と熱心とを以て、國民初歩教育の研究をいたして居ります、勿論學識に於ても、徳操に於ても、並の學校より一步を拔き出たる人を以て其の任に應させて居りますから、皆さんに於ても其のお積りで、學校の教育を家庭で破られる事のない様御注意が願ひたい、若し學校より命ずる事に於て、御不服の點がありますれば御出頭なされて御意見を、お吐きになるがよろし、いつでも時間を決めて御相手いたします、ドーカ陰でコン〜と學校の羨などおコ

四、

ハしなさらぬ様願ひたい。今一つは時々父兄の御參觀を希望します、本校は實に參觀人が多數で年三千人以上に達するので御座います、それで普通の參觀者はいかなる人と雖も規定を設けて、時間中などは



決して許しません、又時によりますと謝絶する事さへあります、御父兄に限り充分の御便宜を圖りまして、いつでも許可して居ります、ドーカ度々御出でになつて、御愛子の模様を御實視なされる様希望いたします、之れが御愛子教養上大變に利益があるので御座います。」と

主事の後に控えらるゝのは斯界に名高き新歸朝者の〇〇〇先生でよく萬事に御氣をつけらるゝ爲めに後れて來ました人は大層便利を得ました。

最後に〇〇〇先生の細密なるしかも、懇切なる御話しが御座いました、入學に關する、手續やら、學校一覽やらを頂き、マ一の之れで子供も安心と思ふにつけても思はるゝは、我が子の事、皆家庭によい丈によく届いた教育が出來て居る事であらうか、其の中へ出して耻しい様な事はないかしら、屹度着物や、袴では最劣等になる事であらうか、イヤ思ふまい、又しても卑しき心の起りし事よ、いつぞや世を擧つて奢侈に向ふ風潮のある事を談じました時良人より、決して衣服や裝飾で競争す

るな、教育の點に於て競争せよといはれた言葉が胸をついてほとばしるのであります。

言葉使ひについての注意

言葉使ひによりまして、大抵其の人品が推しはかれるかと存じます、いかに美々しく粧を凝らして氣高く見ゆる美人も、其の朱唇より洩るゝ言葉がアタイマ一困ツテ、などゝ、響く時には、已に彼の境遇心事が推しはかられて、其の人柄も見劣りがいたします、よしや身に纏ふ服装の何等飾りない質實な人でも、其の言葉使の端正で、禮儀に叶ふて居るのを見ましたならば、其の心事も、察せられて、床しく思はれるもので御座います、カラ言葉使ひには充分の注意を拂ふ價值がある事と信じます。

私はよく子供が、父様歸つてよ、父様居ないのよ、母様アチラに居るよ、母様がこゝいつたから母様が叱つたから、先生が怒つたよ、先生が來たよ、來た來た、先生がアチラへ行けといつたよ、校長さんがこゝいつたよ、

これに類した言葉を常に耳にいたして、實に不愉快に感じるのであります、マー周圍の感化も恐ろしいもので、いかに此の不愉快な言葉を矯正いたしまして、子供等は矢張りいつの間にも何處で覺えますか、かゝる言葉を使ふのであります、學校に出してある子は生徒同志こんな言葉を使ふので御座いませう、宅にあります子は、下女、書生より傳はると見えますから、よく皆に氣をつけて、時時言葉の下品なのはよろしくないから、こんな時には、こゝいふ風に敬語を用ひ、こんな場合には、こゝでと、言ひきかせますが、子供の方は案内直り易う御座いますが、下女の方は中々直りません、長男は少しは辨がついて來ましたと見えます、先生がこゝ仰いました、先生はこゝお書きになりました、お父様は何處にいつてゐらつしやるのといふ風に、陰陽の別なしに、尊ぶべき人に對しては敬語を用ふ様になりましたが、まだ時々又そんな事をと申す事が度々で御座います。一體東京は地方人士のより集りが多いので、言葉も一定はいたしません、郷に入つては郷に従へ

で、矢張り東京言葉を使つた方が便利な様でありすが、この東京言葉には、づるぶんいかいはいしいものがあると思ひます、そのいかいはいしい言葉でも矢張り真似る必要はないと思ひますが、一體子供ばかりではありません、私共の知己で立派な位置權勢のある人でもこの敬語の使用法を知らないで、下品な性格を露す人もありますのみならず、身を教職に入れて、第二國民を教化するの大任を帯べる人さへ、かゝる言葉を使用して、平氣で居る、先生達をよく見受けます、衆寡敵せず、皆さるんがこんな言葉を用ふるから私もとの見識なきよりに起りましたのか、先日も女學世界に日記か何かを書いてあつたのを見ましたが實に驚く程下司な言葉で書いてありましたのがありました、何にいたせ、陽には敬語を用ひ陰には侮蔑の言葉を使ふのは徳義上から見ましても、いかいはいしい事の様には思はれます。一般社會に彌蔓して居ります、此の惡風は矯正するのには餘程六ヶしいで御座いませうが、之は兒が社會に打て出る、其の準備の學校で、教職員の内

力によりまして、矯正しました方が、まだ宜しい  
 でしょうが、其の學校へ出ます準備の家庭に於て  
 母親がよく氣をつけて矯正しておく事が、一番効  
 果があるのであらうと信じます。  
 いかにか可愛らしい女兒でも、玄關に飛び出して、  
 奥に通じますのに、母様お客様がいらしたと告  
 げますのと母様お客様が来てよと告げるのと、來  
 訪者の心持はいかいで御座いませうか。

勉強の習慣を養成するの必要な事

生れて學齡時頃までは、マ一身體の健康を基礎と  
 して何事も身體が丈夫になればよろしい位で其の  
 他の智力や徳育の方は第二に見て要するに只正直  
 でさへあればよろしい位に考へまして育てます  
 が、學校に送る様になりましては少しづつ、勉強  
 の習慣をつける事が大切かと存じます。無論此の  
 説には反對がある事と存じます。よく私共では  
 幼少な頃は少しも勉強はいたさせません。只生長  
 して中學校へでも入る様になれば、自然に勉強す

る様になるから、打ちやつておいた方が却て身體  
 の爲かと思はれますとはよく聞く事で御座いま  
 す。  
 成程天稟才徳すぐれて只學校で習得さへすれば忘  
 れる事はない所謂一を聞いて十を知るの聰明なる  
 兒ならば、或はそれでよろしいかとも思ひますが、  
 マ一普通の子であれば、一度學校で教はりし所  
 は必ず復習をさせるといふ方針の方が、一つは將  
 來勉強の習慣を養成する爲にもよくはあるまいか  
 と存じます。勿論復習の時間は極短く、三十分も  
 あれば充分すべての學科を復習し終へます、其の  
 三十分の復習が身體の健康を害するとは少しも思  
 はれません。ダカラ私共は必ず此の習慣を破ら  
 ない様にさせたいとつとめて居ります。  
 今一つ此の習慣の養成を切實に感じましたのは、  
 私一家に三四人の中學生をお預りして世話して居  
 るのが御座います。其の生徒の家庭はマ一中流で  
 御座いますが、其の中二人の生徒は、劣等の成績  
 を取りついていた厄介なもの、今一人は中の下位の  
 成績の極温和な子で御座います。此のお預りした

少年の成績劣等の家庭は、委しくは知りませんが、其の子を見其の親御に遇つて大抵は推しはかられ

るので御座います。生れ落つると低能兒であつた譯ではありません、皆相當の天稟の才徳を受けて、しかも何不自由なく、勉強に心を入れ得る順境にありながら、何が爲めに斯く劣等の成績を得て、親の心配を増させるのかと、よく氣をつけて見ますのに、他にも原因は無論ありますが、只此の幼少より、勉強の習慣などは少しも御座いません、逸樂を欲するの念強きまゝに其の樂な方に身をおく事をのみ好み、窮屈な復習などの事は出來得る丈通れたいとの風儀が染み込み、中々一朝一夕どころではありませんが、一年有余も御世話して、自ら感化の中心となり、勤勉の風を悟らしめる様にとつとめ、一つは主人より常に平素勉強の大切なる事を實行に示して、導き、或は一室に集めて諄々として説き聞かせ、其の他あらゆる手段を取りて此の少年に勤勉の心を起させ様とつとめましても、中々骨折損のくだびれまうけ位の感じを持つ事が度々で

御座います。しかし此頃では少しは成績もよくなりなりました方で御座いますが、まだ中々なみく／＼の人の様に安心といふ所には前途遼遠の感があります。

習慣は第二の天性とか實に金言であると思ひます、幼年時代を夢中で過して少年期に入り、親も前途に望を屬するの時代に入り、身軀ばかりは大人と同じとなりても折角大切の智徳人後に後れて、親の訓戒位は空吹く風と聞き流し、生意氣ばかり増長して、不良の成績家庭に於て注意してとの學校よりの通知を受け、眞青になりて東奔西走良師を求めらるゝ親御を目撃する毎に、氣の毒に存じますが、其の原因は親御自ら植付けられた種の實を刈り取られるので、所謂自業自得と申すより外はないので御座います、右の様なのは無論家庭教育からして不完全であつたに違はありますが、かゝる子の將來はいかに、尙春秋に富めり、之れが教養宜しきを得れば天晴れ有爲の男子となる決して難きにあらじとは、一寸思ふ所であり、十有七八年の長き月日に染み込みし、遊惰の

風は中々に根治する事は難事で御座います。若し此の儘に悪い方に染まらずに進むにしまして、其の成功の覺束なき圖り知るに難くはないと存じます、マア幼少よりの勉強の習慣がかくも大きな人間一生涯の大事となるを思へば、忽諸に附すべき問題でないと思存します。或は説がありません。幼児否少年時代に少しの勉強もしないで、中頃或る動機により感奮自後すゝんで勤勉し、遂に大成功をなせし人は數ふるに違がない程澤山ありますと。私は思ひます或はさる人もありません。しかし之れは尋常一様の人ではないのであります。或は幼児勤勉を好みしも境遇上勉強する事も出来ざりし人が何かの動機で翻然勉學に身心を入れるとか。又は勉強嫌なりし人が何か感ずる所があつて急變したとか、種々ありませうが、かゝる事は尋常一様の事として見るべきではありません。又一つには時勢といふものがあります、我邦でも明治の初年前後より二十有余年頃まではづぶん變則な勉強によりまして成功した人もありますが、今日の如きすべての方面

によく整頓しつゝある時代には尋常普通のもの尋常普通の道を通りて進むより外道はないのであります。其の尋常普通の道を踏むにふみそこなふ様では、將來の成功も覺束ない心地がいたします。だから毛色の變はつた人間ならばいざ知らず、マア普通の人であれば普通に、否普通よりズエケテよく勉強し、少しでも研究の度を重ねて、この激しい生存競争場裡にカチドキを擧げる様な人を欲しいと思ひます。そゝいたしますには、幼少の頃より親が氣をつけて、勉強の習慣をつけておく必要があると信じます。

## 齟齬の源因

某視學官の談に據れば東京市の學齡兒童六歳より十四歳迄の者十二萬人中齟齬ある者九萬人即ち百人中七十五人と云ふ驚くべき多數に達せる事調査に因て知れしとの事に餘りに意外の結果なるより其記者は志村齒科醫院長ドクトル志村誠麿氏を訪

へるに氏は「驚いたでせう、併し事實だから致方

がない

▲貴族に齶齒持が多い、昨年でした私は貴族の子

と平民の子との齶齒の様子を調べました貴族の兒

童の居る學習院、彼處の生徒の齒の事は醫學博士

樗村龜一郎氏の調査があつたから夫に據りました

が學習院在學の貴族の子弟は平均すると孰れも一

人四五枚宛の齶齒持ちである其處で私は平民の兒

童の調をしますと此方には齶齒が甚だ少くて平均

すると二人に一枚位宛しか齶齒が無い割合になつ

て居る即ち貴族の兒童は平民の兒童より七八倍餘

計の齶齒持である事が解つた

▲貴族の齒の弱い譯そこで其理由を調べて見る

と貴族は一體に山海の珍珠を食つて居る此山海の

珍珠なる物には齒の滋養分になる石灰鹽類が極く

多し上に凡て柔らかい、齒を丈夫にするには石灰鹽

類を餘計含んだ食物を食つて齒に滋養分を與へる

上に一方では始終硬い物も食つて齒に勞働充血を

起させるると云ふ事が肝腎である然るに貴族の食物

は一體に柔らかいから夫だけでも齒が段々に弱くな

る所へ齒の滋養分を食ないから夫で貴族には齶齒

が多くなるのである東京市内の食物は近來次第に

贅澤になつて來た柔らかくなつて來た石灰鹽類を含

んだ物よりも之を含まない物の方を餘計に食ふ様

になつて來た是が即ち東京市内の兒童に數多の齶

齒持が出來て來た譯であらうと思ひます

▲平民の齒の丈夫な譯之と反對に平民の常食

は麥飯に若布汁貝類名古屋大根の切干めざしなど

と云ふ類の物が多し兒童の食ふ菓子も貴族の子の

食ふ様なカステラとか羊羹とか云ふ柔らかい物では

無くして豆板豆ねち薩摩芋、切干等と云ふ硬い物

が多い此硬い者が皆齒の一番の滋養になる石灰鹽

類を澤山に含んで居る物なのである殊に名古屋大

根の切干の如き實に澤山に此石灰鹽類を持て居る

若布は名古屋大根の切干よりも一層澤山の石灰鹽

類を持て居る若布は又實に消化の良い物で三歳の

幼兒に食はせても宜いものである

▲齶齒は恐ろしい物一體に硬い物は消化の悪い

と云ふ缺點はあるが是は料理法をよく研究して食

べれば差支へまいと思ふ蘇格蘭人はオートミイ

ルで豆板の様な菓子を拵へて食ふオートミールは  
 石灰鹽類を實に澤山持つて居る物である夫で硬い  
 菓子を拵へさせて小兒の時分から食べ慣れるから  
 蘇格蘭人は實に世男中第一等の齒の丈夫な人民で  
 ある齒の衛生上から云ふと可成齒へ陰附かない  
 サ／＼した米煎餅の様な物が宜い米煎餅などは口  
 へ入れると齒に陰附かないのみならず唾で溶けて  
 了ふから齒の爲には實に宜い齶齒と云ふ物は實に  
 危険な物で其處から種々な微菌が入つて或は中耳  
 炎をも起し或は骨膜炎をも起す實に恐ろしい物で  
 す云々

### 薔薇の話

礫川生

愛玩植物の數は夥多あります。其のいづれを優  
 れりとしいづれを劣れりと致す事は出来ませんが  
 花も美しく香もゆかしいものは薔薇に如くもの  
 西では大層薔薇を賞玩致します。その結果所謂

薔薇祭なるものが年々行はれると云ふ事です。こ  
 の祭は古くローマ、ベニス等の町が盛んであつた頃  
 より行はれ今猶五月には行ふと云ふ事です。殊に  
 米國の西部は氣候温和にて四季花の絶ゆる事なく  
 ワシントン州のタコマ市の如きは此の薔薇祭が最  
 も盛んでありまして市中より妙齡の少女數人を選  
 抜してその中の一人を薔薇の女神とし花を以て全  
 身を飾り他の少女等を従へて市民より花の冠を  
 いたやく式があると云ふ事です。薔薇は日本に於  
 ても古くよりあつて「いばら」「しやうび」「うば  
 ら」「うまら」「さうび」などと稱しました。萬葉集  
 十六及廿に「うまら」とあります然し薔薇は日本  
 固有のものでなく支那若くは朝鮮を経て渡來した  
 ものでありませう。然らば薔薇の原産地は何處か  
 と申しますと之れはいろ／＼と議論のある事です  
 が私は亞細亞だと信じます。今日では廣く世界に  
 ゆき渡りましたが英國及佛國が薔薇の産地の重な  
 るものであります。日本では古來あまり薔薇は賞  
 玩致さなかつたものと見へ許六が百花譜中に  
 「長春ばらのたぐひは紅白うつくしく粧ひたる

には似たれども元來いやしき花の殊に盛り久しきこそうたてけれ云々とあります、尤も日本在來のもの皆野茨とも申すべき種でありましたが近來は泰西より種種輸入されその種類も枚擧するにいとまない程です、今左に極く簡単に薔薇の栽培を述べて見ませう

薔薇の移植

薔薇は一年中何時でも移植する事が出来ます。然し極く寒い時期などはよろしからず十月より一月頃までの間は移植するによい時期であります。移植する時期は各地方により勿論一定しません。一凡に溫暖の地は暮秋がよろしく寒冷の地は初春を選びます尤も溫暖の地にても地底に水氣を止むる如き所は初春に移植する方がよいのです。移植の時には鬚根を大切にし若し損したる箇所あらば鋭利なる小刃で切り去らなければいけません。遠地から送つて来たものは大底鬚根が多少損じて居りますから必ず手入をしなければいけませんそのまゝに放擲してをきますれば損したる所よりド

ンと腐敗し始めます。暮秋に移植する時には腐肥を埋めまず春期の移植には膏腹なる土地ならば地上に少し肥料を與へれば充分です。肥料を土中に埋めまずと夏期の早魃に堪へません。鉢植のものは毎年移植するを要します然らざれば良花をつける事がむづかしいのです

土と壤

地質は砂土混合したる肥沃の土地をよしと致します。もし土地が粘土質でしたら灰、石灰、腐肥等をまぜ輕鬆になしもし又あまり輕鬆に過ぎましたら粘土又は推糞をませます。薔薇は總じて濕潤をきらいます。デインホル氏の言葉に「薔薇の花園は被蔽すべしされども蔭蔽すべからず」とあります。薔薇をして多く蓄をつけしめんには充分に日光にあて土壌は乾燥せしむる方がよいのです。盆栽にして樂むには鉢は素焼のが最も上等です

肥料



米の磨き汁又は魚肥なんでも皆肥料として用ゆる事が出来ず。糞草粕、鳥糞牛豚の糞皆肥料に適します。殊に牛糞は最もよく豚糞之に次ぎます。肥料に糠を與へる時は虫か發生する事があります。

灌 水

灌水は臨機應變で謂所過ぎたるは及ばざるが如しであまり度を過してもいけず又あまりなげやりにしておいてもいけません。要は中庸を得るに在りて獨り灌水に限らずあまり樹木をいちりまはすのはよろしくありません。或程度までは自然にまかして置くのがよいのです。これが栽培の秘法であります。灌水は某氏の實驗されたのが適當と思ひます。から左に轉載いたします。

十二月より三月 一週毎に一回 日中  
三月中旬より四月 二日毎に一回 日中  
五月より九月 毎日一回 日中  
十月より十一月 二日毎に一回 日中  
まづ大體右の標準で致したならば大差なからうと思ひます。

薔薇の繁殖

種々なる繁殖法があります。最も容易で且面白く繁殖法は扦插法であります。此の法をなすにはまづ前年發生したる枝を長さ三四寸に切り（此の枝の長さは九寸以上なるをよしとす）芽を二つ三つつけおき地面にさしこみ地の上をよく壓しつけ固め日被をまうけ土地の乾燥せぬやうに注意し時々灌水する時は三四週間の中に根を生じます。之をなす時期は春秋の彼岸又は梅雨中をよしとし土壌は圃土の輕鬆なるをとり砂と等分に混じてつくります。四季咲くものは一般によく根付くものなれど一季咲の種は成功しにくいものです。かくして生じたるものは長く土中に置く方がよいのです。次に薔薇の雜種を作るも亦たのしみなものです。先づ之をなすには雜種を作らんと欲する二種の薔薇をとり、翌日開かんとする花を指頭にて徐かに開き剪刀にて雄蕊を悉くとり去り雌蕊のみを残し翌日満開の時他種の雌蕊の花粉を軟かなる毛又は筆頭につけ雌蕊の頭につけます。かくして降霜後結實して充分に熟したるをとり小刀にて割りその

中の種子をとり出し、數日間陰干にし、後肥土をもちりたる鉢に播種します。かくして充分霜を防ぎ、發芽したるを翌春に到り地に移します。成可くはやく蒔種するをよしとし、然らざれば發芽遅きものです。種子を保存する時は必ず實ごと貯へねばいけません。かくして六年の後に到りはじめ、紅白の二種を雑種せしめしならば、その中間の雜種を生じ、面白です。又枝に全く他の種の花を着くる事もあり、ます例へば楊貴妃より白色の驪山の月が生せしやうなものであります。

薔薇の種類

種々なる類別法がありますが、今最も簡單に開花する期によつて大別して見ますれば

一季咲き

三季咲き

四季咲き

となり、まず一季咲は初夏に一回、三季咲は初夏開花後に剪枝灌水等をすれば、初秋又は中秋に花をつけ、四季咲は四月末より一月上旬まで花をつけ

ます。四季咲のものには新天地、慶典、虎の洞、猩々舞、天國香、泰山白、世界の圖、白黃、美香登、楊貴妃等、一季咲のには白の大鳥毛、黒の大鳥毛、金の塵、岩鏡等、澤山あります。四季三季咲のものも手入あしき時は、二季一季しか花をつけなくなり、ます。薔薇の種類は非常に多數であり、まして中には同一種に異なつた名稱を負せたものもあります。詳しくは薔薇の花鑑を御覽になれば別ります。

剪枝と剪根

薔薇は古い枝幹に花を開かず、必ず新しき枝の上に花をつけるものであります。又古い枝をそのまゝに残して置きますと、新枝が細かく密生致します。されば必ず剪枝を行はなければいけません。剪枝する場合には、少し思ひきつて餘計に切つて仕舞ふ方が、反つて好結果です。又同時に剪根と云ふ事も大切で、これは一寸考へますと、根は餘計あつた方が、餘計營養分を吸収するであらうと思はれます。古い根は適宜に切る方がよろしいです。剪枝の場合でも、剪根の場合でも、用ふる小刀は必ず銳利な

物をえらばなければなりません。花が咲き終りま  
したならば實は種子を採るのでなければやく採  
り去る方がよろしいのです

薔薇の花と葉

花の形は或は丸き或は扁き又は八重一重鐘の形に  
似たる等數多あります。又色も白紅黃赤實に千態  
萬狀であります中には咲き始めて散るまでに花の  
色の變るものもあるが第一に重きを置くのは花の色  
であります又花の形、香ひ及び開花期の長短など  
薔薇の優劣を定める標準となります。又その葉

- 一、葉厚く色濃く艶ありて葉の切込み粗にして淺し。白黃の類
- 二、葉厚く色濃く艶ありて葉の切込み細かくして深し。天國香の類
- 三、葉厚く色薄く艶なきもの。虎の洞
- 世界圖の類
- 四、葉薄く色濃く艶あり葉の切込み荒く粗にして深きもの。黃司濱荻の類

五、葉薄く色淺く艶なし脈細かなるものは白花にて野茨の類なり  
まづ以上大體五つですこの他岩鏡の類の葉は大體  
白黃の葉に似てをりますが又異なつた點もありま  
す要するに以上の五種を標準となさりましたら  
ば一寸類別が出来る事でありませうと思ひます。

薔薇の害虫

種々なる害虫が発生致します。従つてその驅除法  
も夥多あります。除虫菊又はテレピン油を用ひ  
て驅除する事が出来ます。又薔薇の新芽の柔軟な  
部分に爪にて痕をつけたる如き痕のある事があ  
ります。之れも害虫が卵をつけたる所でありま  
すから直ちに籠の如きもので爪痕の中を削る様に  
して搔取らなければいけません

花言葉

終りに種々なる花には種々なる意味を持つてをり  
ます。例へば堇の貞操を意味する如き又はうまご  
やしの葉が幸福を意味する類であります、薔薇は

愛をあらはしてをります、然しその色又は花の取扱ひ方などによりまして色々の意味をあらはします左に二三の例を擧げて見ませう

紅き薔薇 恥かしさ  
黄き薔薇 嫉妬  
一重の薔薇 質朴  
白き薔薇と紅き薔薇 一致共同  
薔薇の花を逆に差出したる時は  
否定の意味

等であります。霞を食ひ雲にのる仙人は知らず我々の如きものでも觀賞植物の花を食すると云ふ事は非常に風流の事と思ひます。日本にても菊の花、櫻の花又は牡丹の花などは食用と致しまするが土耳古にては昔からデコルシャヤと申す一種の花簍を作ると云ふ事です 又支那に於きまして

明の顧元啓の茶譜の中に  
「木屋玫瑰薔薇蘭梅花云々皆茶となすべし」とあります

之れは梅や薔薇の葉又は花より茶の代用品を作るのではなく茶葉に梅薔薇の如き芳香のある花の香を移すのであります、いまだ梅の香

の致すお茶や蘭の香のする御茶を頂いた事はありませぬがいかにも風流の事と思はれます。又希臘の神話などに「天の使が瓶の酒を盗した。夫が地に落ちて薔薇となつた」など云ふ話もあります

附言 値木屋は駒込の美香園又はばら新か大久保の華州園などに小一圓も持つて行けば相當な薔薇が求められます。陽大といふ種の如きはアメリカンビューチイと云つて賞讃されますが日本では至つて廉價に求める事が出来ます。





# 此頃の 菜の 惣

## ○甘藷と葱の清汁

甘藷は皮を剥き四分ほどの輪切にし葱は一寸程に切り清汁に煮る也 甘藷と葱とはよく取り合ふ者なり 共に之

## ○菜と牡蠣の清汁

たゞ二品を清汁にして煮るのみ但し菜に限らず葱にもよろし

## ○薩摩じる

薩摩汁とは胡蘿蔔葱甘藷たゞき鶏肉の五品を醃だしの清汁に入れて煮込みたるものなり 旨き汁にて人之を稱美す 其の切方は胡蘿蔔はあられの如く細かに菜の目に切り 午芡はさいがきにして暫く水にひたし 甘藷は五分程の菜の目に切り 葱は一寸程に切り 又之を堅に三ツ四ツに切り 鶏肉はたゞきにし 固めずに入れてかきまぜるべし 而してその鍋に入るゝ順序は 午芡を最初に入れ次に鶏肉を入れ 次に胡蘿蔔 次に葱 甘藷は煮へやすきもの故最後に入るゝなり 又右五品の他丸のまゝ入れる もし大椎茸を用ふる時は 之を短冊に切るなり

## ○大根のふろふき

大根の太く性のよきを撰び 厚さ一寸程の輪切にしてよくむし之に味つけたる煮味噌をつけて食す、その味噌は赤味噌に限る 岡崎味噌を可とすおろし生姜と胡麻とを入れて摺り 酒少

し加へ味噌を和げ而して後之を煮るなり 但し味噌は煮ざるも亦可なり 煮れば味噌臭き香はぬけるなり

## ○燕膏と鶏肉

大燕膏を一寸四方ほどに切り湯煮しその中に鶏肉を少し入れ燕膏のやばらかくなりたる時に醬油をさすなり 但ししたぐに酒は入れるに及ばず又鶏肉はだしになすつもりにて少し入ればそれにて燕膏はうまくなるなり 又鶏の骨を煮だしをき之をだしに少しつゝいさして燕膏又は大根を煮るもよし

## ○甘藷の南蠻煮

甘藷は皮をむき四分程の輪切にし 葱は一寸五分に蒲鉾と椎茸とを入れば更によし 蒲鉾は四分ほど の目 椎茸は細く切るなり

## ○たぬき汁

菜の目に切りたる 蒟蒻と赤小豆と豆滓との三品を味噌汁に入れて煮る 之をたぬき汁と云ふ 但し味噌は通常の赤味噌なり

## ○芋環むし

芋環むしとは餛飩の茶碗むしなり 餛飩を主として種々なる品をとり合せて鶏卵を入れて蒸すこと通常の茶碗むしと同じ 今その取り合せの例を擧げて示せば左の如し

- 一、餛飩 鴨 菜 椎 茸 銀 杏
- 二、餛飩 伊勢 蝦 菜 乾海鼠 薑 蕨
- 三、餛飩 鰻の蒲焼 水 菜 百合根 栗

## ○大和じる

大和じるとは粕汁なり 酒の粕三分と岡崎味噌七分とを摺り交ぜるなり (上等になす時は美祿粕を用ゆ) 汁の實は胡蘿蔔蒟蒻椎茸の三品を入れる 胡蘿蔔は厚を四分の小口切 蒟蒻は厚を二三分の小口切の短冊 粒椎茸は椎茸の最も小なるものゆへ程に切るなり 而して先づ葱を鍋にしき、その上に甘藷のせて

煮るなり

○きんびら午莠

午莠を一寸三分に切り又之を堅にはそく切り 半日程水にしたしをけばあくはぬけるなり 而して之を飯糰にあけて水を切り 酢と醬油を煮立たせたる 中に入れて煮る 又粉番椒を入れる

○甘藷の餡かけ

甘藷を通常の如く煮しそのさめざる間に 之を七八本の葉の目に切り鋸をかけるなり 但し甘藷は成可く中央の中央のみにて葉の目をとるべし又甘藷は丸ゆでにして切りてもよし

○煎り豆腐

先づ豆腐を丸のまゝゆで 之を布の袋に入れて よくその水氣を去り その砕けたる豆腐を飯に入れて空煎し 又其の中に交ゆべきものを別にあじつけて煮るなり 之を汁共に右の豆腐にまぜて煮ながらかき廻すなり その豆腐と交ゆべきものは椎茸 蓮根 叩き鶏肉 柚子の皮 花鰓等の中よるしきものを用ゆべし 又上等にする時は右の豆腐を空煎する時に鶏肉をまぜるなり 又右の煮方はしたじに酒と砂糖とを加へて之を中淡の半汁に煮るべし 又切方は椎茸は二分程の厚さに切り蓮根は太ければ堅四ツ割りにし細ければ二ツ割にし之をこく薄く切り 柚子の皮は細かく切るべし

○せんまいと油揚

せんまいを柔かに煮るには 先づせんまいを一日前より水に浸しなき 之をゆでしその汁のまゝ半日ほど打つてなげば自然と太びて柔かとなる そを油揚と共に煮るなり 又せんまいに鰹をいれて煮るもよし

○大根の味噌あへ

大根を一寸程づゝに輪切にし 又之を巾五分厚さ三分の短冊に切り 湯煮して味噌にあへるなり但し味噌の中へ砂糖と生姜

を摺り込みをくべし

○甘藷の共あへ

甘藷のきんとんなり 甘藷を五分に輪切にし又之を巾三分厚さ一分の短冊に切り 生のまゝ鹽をふりかけて暫時なげば色黒くなる 之を水にてあらひゆでれば又更に黄色となる 又別に丸のまゝにてゆでしすりつぶし 淡鹽と砂糖とにて 餡の如く煮る 之を右の短冊の甘藷にかけてあへるなり

○蒟蒻の味噌あへ

蒟蒻を二分ほどの厚さに切り湯出し 味噌を酒にてとき生姜をすり込み少し砂糖を加へあへるなり

○葱の田樂

葱の白根ばかりを七八分程つゝ切り 串にさし胡麻の油をぬり付けて焼き 之を三本程づゝ淺草海苔にてまき その上に味噌をのせるなり 味噌は岡崎味噌に砂糖を加へ酒を少し入れてするなり

○牡蠣の付焼

まつ牡蠣をゆでて串にさし素焼し 而して後胡椒を入れたる生醬油をつけて焼くなり 酒の肴などによろし

○油揚のつけ焼

すり生姜をいれたる醬油をつけて焼く 單簡にて美味なり

○大根の柿生酢

大根をなますつきにてつき 之に少し鹽を加へたる酢の中に入れて 又串柿をつぶして入れ 而してよく掻きまぜるなり 日數たてば次第になれてよろし

雑 報

● 酩酊に就て

▲酩酊とは何か 云ふ迄も無く酒精中毒の状態を言ふもので精酒でもビールでも葡萄酒でも林檎酒でも其他何種の酒でも凡て酒精を含んだ飲料を飲めば必ず酩酊するものである併し酩酊には二種類ある一つは慢性で他は急性であるが通常酩酊した即ち酔つたと云ふ場合は多く酒精の急性中毒の場合を稱するのである。

▲中毒作用と悲劇 一は單一酩酊又は普通酩酊とも云ふべきで酒精は肉體に精神に確かに中毒作用は起して居るが併し大した變化を與へない例へば一寸目の縁が赤くなつたとか胸がドキ／＼すると云ふ位に過ぎないのである併し一層進んで複雑酩酊又は病的酩酊といふのになると知覺の上にも運動の上にも非常なる大變化を起して平素弱い人が大層強くなつたり平常笑て居る人が泣出したり其他有害無害のあらゆる状態に人を導くのである而

して此種の酩酊は精神病質の人神經質の人又は中毒性と云つて平素も酒の中毒の爲めに普通酩酊の状態にある人などになると特に烈しい變化を起すもので此の爲めに社會には日々幾多の悲劇喜劇を生み出して新聞の三面を賑はす事になるのであります。

▲何故酩酊するか 酒精が神經中樞其他知覺、運動神經を刺戟し又は麻痺して了ふので酒を飲んで酩酊すると第一に意識が混濁し或は無意識となる混濁の方は五官が働きは働いても總て明瞭しなくなるのであるが更に無意識又は人事不省となると何が何やら薩張り解らず夢中になるので即ち便所の中を寢所と思つたり大亂暴をして警察に曳かれ翌日氣が付いても一向知らないと言ふのが是である第一に注意力が減少し過誤が多くなる例へば物を忘れて來たり後から知らぬ人の肩を叩いたりする如なのである、第三に知覺は鈍くなり錯覺と云つて物事を視聽しても凡べてが混線し、幻覺と云つて無い事がある如に思ふ、例とへば神様が見えたとか、狐が居ると騒わぐ如なのであり、第四は

了解が非常に困難になつて一つ事を何遍聽かされても奈何しても了承が出来なくなる第五に記憶は一時全く脱出して所謂健忘となるので飲酒家の諄いのは此理である又無暗と記憶違ひをして飛んだ事など言出し杯する、第六に感情及感動が發作的に何事も愉快になつて騒ぎ廻る人もあれば沈鬱性と云つて無暗に鬱ぎ込み泣き出すもあり其他様々の作用を起し、第七に聯想は遅くなり又は速くなり或は錯亂して更に纏らないから試験の際など酩酊の氣があると答案は少しも纏まらぬ扱て第八第九に考慮及判断は如何變化を來すかと云へば其缺乏の方は良いとしても其妄想になると。

▲最も危険なる 結果を起すので其の中誇大妄想は自分は酔つてるとは知らず平素は猫の如き人も急に虎の如になり無暗に偉らがつて威張り散らし以つて愉快とする類であるから間違つて喧嘩する位ゐのところは未だ愛嬌もあるが嫉妬妄想となると平素貞操な妻を疑がひ又は然もないことに邪推したりして其正直な辯解もすればする程益々曲つて取る結局は毆打となり及物三昧となるので私

が裁判所などで鑑定した事件の起因が此の嫉妬妄想であつた事は無數で實に三面種の供給の基と云つてよい最一つ被害妄想と云つて何事も他が自分を迫害する如に考へ他の世間談しで居るのも自分を陥る相談かと思ひ後から來る人も自分の者を奪るのではないかなど非常に恐れ安心の出來ぬので恁麼なのは多く酩酊中に發狂し又は自殺などする是に似たのが罪業妄想と云ふので自己のした些細の過誤なども大罪惡の如く自らを責めて已まず之も極端になると自殺になる最後に意志及行動は酩酊の爲め如何に變ずるかと云へば一から九の如く順次に違つて來たので無論何所でも正しい譯はなく興奮運動と云つて精神の興奮の爲め軀の方も何でも出來ると考へたり衝動行爲と云つて無意識で惡戯したり又は出齒根性などを起す其他表出運動と云つて顔面を様々に變化させ又は靜乎と出來ないで無暗に飛び跳ね騒ぎ歩るきなどする言語はと云へば呂律も無く疳高となり手書などはブル／＼と震へ亂れて出來なくなる云々。(中央)



● 何んな玩具がよいか

大阪市の幼稚園長會では市中の各玩具店の玩具の中から家庭などで幼児に持たせて良いと認めたものを選定したがこれは各家庭の参考となるものである。

ゴム製人形及動植物、繪合の類、木製ロクロ、木製電話、組立人形、不倒翁、米搗車、粘土及其附屬具、手帳鉛筆、眞田紐、小石ポンプ、家具類模形、毬のせ、寫眞、寫眞眼鏡、勳章類、寫眞機、色紙、馬車、自轉車、人力車、荷車、動植物模造、寫眞、置紐面、花、智慧輪、自動車、軍船、帆掛船、兩眼鏡、不思議の變り繪、犬張子、春駒、バイオリン、オルゴール、紙風琴、琴、茶道具裁縫用具、靴、玉入れ、玉コログシ、毛人形、木製煉瓦、色カルタ、繪ガルトタ噴水、紙製石盤、油繪カード、廻り燈籠、パケツ、漏斗、箱、小間物店、ハーモニカ、飛ンデコイ、バス、郵便遊具切切符、學校遊具、シャボン球、角力人形、龜山チヨンペー、線スベリ

人形、デアボロ、銀行遊具、鐵琴、組立繪(立て)、種々景色等を造るもの) 教育幼稚園玩具、新案教育動物早替

さて幼児の保護上必要な玩具の効能がザツと分る即ち鐵砲や刀などは小兒の實行的勇氣を養ふ、お手玉や玉入れ(これは硝子の張た盆のやうなものや、木の小さい盆の中に渦のやうな垣や、人形の顔などがあつて、小さい玉が口や眼に這入つたり垣を潜つたりする掌上玩具)は忍耐力を増進する環投げ、弓矢、羽子板は注意力を、繪畫、人形等は美しい人情を、着物着せかえ人形、積木、組繪笛、喇叭等は耳を敏くし、風船玉、眼鏡等は眼の力を養ふから此等は皆な有益な玩具である併し幼兒と云つても生れて間のない者もあり小學校へ通うて二三年も絶つたのもあるからそれに従つて種類が違ふ、即ちまだ襦袢の裏に在る頃ならば風車風船、でんぐ太鼓、笙の笛、旗などで之は唯だ見て居る時代だ、次は安坐、匍匐時期で子供は漸く玩具を手を持つ頃でオシヤブリ(木又は象牙)ゴム人

形、ゴム毬、ガラト(セルロイド製)犬猫等(ゴム又は磁器)ソルから立て歩く時代になると旗(布)太鼓笛(木製)ラツバ(木製)不倒翁(木製)馬、猿、兎、雞等(磁器又は布製)などが適當で更に生後一ヶ年以上になると玉乘人形負ひ猿、磁器、ゴム製の魚、天神様、達磨等であるが以上の時期の玩具は(一)消毒に注意すること(二)剝げる繪具のものを避けること、次に三歳から六歳までは動物及び人物畫、動物標本、風船、毬(ゴム、綿)凧、獨樂、繪本、眼鏡(色眼鏡蟲眼鏡)龍吐水、舟、車、コロッブ銃、刀(サーバル)積木組立人形、ま、ごと道具、又た七歳から十歳までは器械にて活動する動物、船車類、ハーモニカ、手風琴、輪(竹又は鐵)繩(繩飛びに用ゆ)繪合せ、羽子板などが宜しい、注意すべきはブリキ、硝子等の玩具を避けること、賭けごとのやうな玩具を避けること、活動的に遊ぶものを選ぶ、こわして遊ぶものよりも組み立て、遊ぶものがよい等の心得である。(大阪毎日)

### ●セルロイドの製品

近頃小間物屋や玩具屋の店頭に並べられてある物の中に、セルロイド製の種々の物がござります、多くの人は之を謾製のものと思つて見て居りますが、セルロイドの原料は樟腦と綿との二種を以て製造するのでありまして、生地は鼈甲のやうにも象牙のやうにも翡翠のやうにも、木目のある木地の漆細工のやうにでも、つまり繪の具の用ひ方で思ふまゝのものが何でも出来るのであります、外國では此セルロイドが、美術品及び種々なるものに應用されて居りますが、我國では原料を外國から輸入し、それに加工をすると比較的高價なものに付きますので、従來はただ簪とか洋傘の柄とか云ふやうなものに用ひられて居つたばかりです處が近頃種々な美術的雜貨品や玩具等が造られるやうになりました、なほ其上に京橋銀座のセルロイド會社では目下外國から原料製造の機械を取寄中ですから間もなく原料が盛に製出さるゝやうになりませうさうなりますと、御承知の通り我國で

は臺灣から樟腦が澤山産出されますから、原料が  
 ズツと廉くなりまして、従て之に蒔繪蝶貝細工其  
 他美術的工藝の手を加へましても、今日よりはズ  
 ツと恰好になると云ふことです、同社には蒔繪の  
 硯箱菓子器其他種々な雜貨玩具小間物類が陳列し  
 てありますが、就中玩具は少しも危険がなく、小  
 さいお子さん方には最も適當であらうと思つて見  
 て參りましたそれから、手帳ですこれは鉛筆で書  
 きますと文字は鮮明に描寫されますが、護謨で消  
 しますと、跡方もなく奇麗になります、幾度も用  
 ひられますから、家庭に於ける主婦方が一日の重  
 要な事柄、又は小遣などの假記入をして心覺への  
 契とさるゝには大變重寶であらうと思ひました、  
 それからメタル、これも文字が極めて鮮明に印刷  
 されて居りまして、價も廉でありますから、團體  
 若くは何かの催しの時などの徽章に用ひたならば  
 風變りで面白からうと思ひます、兎に角これから  
 護謨でないセルロイドが益々流行しませうから、  
 御參考にもと思つて、聞いたまゝを記して見まし  
 た。(時事)

### ● 布哇より來信

秋冷相催し御地にては秋の錦に野山の景色を添へ  
 させられ候頃と何につけてもおなつかしく存候  
 扱て先頃は御無理を御願ひ申上候に早速御聞き届  
 被下數々御送附被下一同大に喜び申候御かげにて  
 生先き永き稚子も故國の稚子の如くにかれこれと  
 導かれ候事と一同に代り深く御禮申上候  
 去る三日は布哇に於ける第二回目節會に會ひ申  
 候丁度帝國の練習艦隊淺間笠置の二艦二日に着い  
 たし候へば一しほの賑ひに御座候ひき  
 當地在留民の天長節をたのしむ事正月の夫よりも  
 増り候て學校にては夫々運動會の準備に候て短か  
 きをかこち夫人連は天長節の夜會にとて新調の衣  
 服の品定めなど思ひよらぬ事數々ありて一般にた  
 のしみまち申候其日朝九時より十一時までに領事  
 館にては一般在留民の拜賀を受けるとして 御聖影  
 を祭り學校生徒には祝賀の爲菓子を分與いたすな  
 ど大君の惠のほども思はれて嬉しく存候  
 私共の學校も中小學七百名に及ばんとする生徒を

引いて領事館に参り拜賀の後君が代を奏し申候故國といまは母校なども思ひ出されておはづかしく候領事館員は一同に正装して一般の拜賀を受けさせられ候

午後三時よりは軍艦のアットホームにて招待されたるは内外人数百名と聞き及び申候軍艦にては航海中に準備されし由にて所々に砲、銃、砲丸などに造花をあしらひて見立細工あり、角力、柔道などありて軍樂隊の奏樂御座候

我國の軍艦とはこり顔に脊低き體を肩そびやかすあり平常の勞働服にかへてシルクハット姿に人見ちがへて笑ふ聲もけふばかりはたのしそうに聞え皆一切に笑顔ならざるはなくこゝは日露戰爭の際のキズこゝは何と説明されてはあゝと喜ぶ聲艦内に充ち申候

五時には旗艦淺間にて宴會は開かれ申候水兵の手になりしとかの造花を以て卓子は飾られ此肉も此ハムも故國のと聞かされては唯も一しほの感いたし候

宴會の席にてをかしきは外人にて箸と匙とを出し

日本人の方にはナイフ、フォークといふ事にて外人はめづらしきことに箸をもちし姿をかしく候

日没軍艦旗の下ると共に一同辭して歸途につき申候夜は當地一等のホテルにて夜會有之候が私は朝よりの疲勞に夜は辭して靜に家人と共に天長節を祝し遙に故國を忍び申候

軍艦も一週間の豫定なりしが變更ありて一昨十三日解纜いたし候其英姿を見んと集まりたる同胞皆一時に萬歳をさげび帽をふりて別れを惜しみ候風情は壯大なる艦體と和してたしかに愛國の念を深からしめ候當地に生れたる兒童の爲非常に嬉しく存じ候

よしなき事のみ申上御手間とり申候  
先は右御禮申上候かしこ

赤星 千代子

十一月十四日  
フレーベル會御中



お伽訓話

無色の珠

硯 山 人

むかし、或る所に大層御金持ちの家がありました、廣い御庭のうちには大きな瓢箪の形をしたお池があり、又その向ふ側には美しい築山があり、お池の中には餅鯉や眞鯉が澤山に面白そうに泳ぎまわり、築山の上には小松がいつも青々と繁つて居ります。

この家の一郎さんと云ふ男の子がありました。一人息子でありましたからお父さんやお母さんのお愛がり方はそれは、一方ではありません朝夕大勢の下女下男にかしづかれ何不自由なく暮して居りました。

何でも一郎さんのほしいと思ひまするものは皆買つて頂き、玩具の活動寫眞や飛行機やら一郎さんの玩具箱には一抔にありました。

然しそれは決して一郎さんがねだつて買つて頂いたのではありません、皆、一郎さんがおとなしいのでお父さまやお母さまやおちさんやおばさんが御褒美に買つて下さつたのです。

一郎さんは誠に性質のよい禮義正しい子でよく勉強いたしますから、學校でもいつも先生にはほめられ、又お友達からは大層敬はれて居りました、一郎さんは大層壯健な質でまだ生れてから一度も病氣と云ふ事をいたした事がありません、それは一郎さんがお父さまやお母さまのおつしやることをよく守り決して不養生をしなかつたからです。

或日の事、一郎さんは自分の勉強室で椅子にもたれて一生懸命に、其の日學校で先生から教へていたゞいたところを復習して居りました、すると足元で小聲で誰かゞ。

『一郎さん。』

と呼ぶ聲がきこへます。フト足元を見ますと、小さな眞白い髻の生へたおちいさんが立つて居りました、そこで一郎さんは、大層びつくり致しまして、

『オヤ、あなたはいつ僕の部屋にきたのですか、何か僕に御用ですか』

とたづねました、おちいさんはニコくと笑ひながら、

『そうです、あなたはよく御勉強なさりますし、またよくお父さまやお母さまの、おいっつけを御守りになりますから、今日はあなたのまだ見たことも聞いた事もない様な、美しい立派なものを差上げませうと存じて参りました。』

と答へました、それをきゝまして一郎さんは

『それは、おちいさん、一體何ですか。』

と熱心にたづねますと、

『それですか、それは美しくしい無色の小さい珠です、之はまだあなたが御存

知らない寶物であります。』

そこで、一郎さんは急にその立派な、色のない珠と云ふのが見たくまりましたので、

『おちいさん、一體その無色の珠と云ふのは、何處にあるのですか。』  
ときゝますと、おちいさんは、

『その珠は、何處にでもあるのです、けれども容易に手にははいりません、  
そしてあまり御金持ちの家にはありません、此の珠からは金でも銀でも、  
形のありますものは勿論名譽でも富貴でも、皆振り出すことが出来ます。』  
と申しました、之をきつて一郎さんは、

『それはなんと珍らしい珠なのでせう、僕は今迄なんでも自分の思ふ事や、  
自分の願ふ事はかない、自分程幸福な者はないと思ふて居りましたのに、  
世の中にはまだそう云ふ、立派な珠をもつてゐる人もあるのですか。』

『そうです、そして此の珠から振り出した、名譽や富貴でなければ少しもね



「うちがありません。」

そこで、一郎さんはおちいさんに、どうかその無色の珠のある所へ連れて行って下さいませと切にたのみますと、おちいさんは、ニコ／＼しながら、

『それはおやすい御用です、然しその代り無色の珠を採りにゆく途中はどんな事がありましたも、あなたは「ハイ」より他の言葉を云ふてはなりません、もし一言でも他の言葉を云へば、もうその無色の珠はともあなたの手にははいりません。』

と申しました、一郎さんは、きつと「ハイ」より他の言葉を云いませんと堅く約束いたしましたので、おちいさんはそれでは珠をとりにはゆかうと一所に出掛けました。

此のおちいさんは、小さいくせに大變に足が早いのです、一郎さんは始終驅足をしなければ、なかく追付けません。

ドン／＼と行きまする中、大層急な坂に參りました、すると坂の途中

で、一人の小僧さんが大きな荷車をひき上げやうとして困つて居ります。之を見ますると、おちいさんは一郎さんに向ひ、

『あなたはあの車の後押をして、坂の上まで押上げて、おやりなさい。』

と申しました、一郎さんは、先刻の約束通りたゞ。「ハイ」

と返事を致しましたきりで、早速その荷車の後押をしました、ところが此の荷車の重い事、それはく一通りではありません、エンヤラクいつてやうくのこと、坂の上まで押し上げました。

ヤレ草臥れたと思ふ間もなく、おちいさんはもうドンく先にあるいて行きます、一生懸命で追附きますと、

『一郎さん、むかうで、女の人が水を汲みこんでゐますから行つて手傳つて

おやりなさい。』

と申しました、一郎さんは又約束通りたゞ。「ハイ」

と答へて。すぐその女の側にゆき釣瓶で水を汲みこまんと致しました、ところ

が、此の釣瓶の重い事、それはく一通りではありません、瓶に一抔にする迄に、一郎さんは自分の腕が折れはしまいかと思ふ程でありました、やがてまた五六丁も参りますと、おちいさんは。

「一郎さん、むかうに鍛冶屋が見えます、鐵は熱い中にきたへねばなりません、早くいつて手傳つてゐらつしやい。」

と申しました、そこで一郎さんはまた「ハイ」

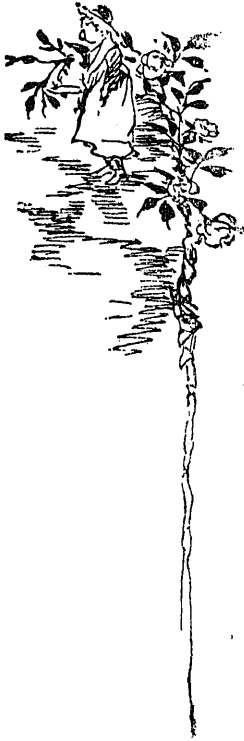
と答へたきりで鍛冶屋の店にはいつてゆきました、さて槌をふり上げて、トンカチくとやりはじめましたが、又この槌の重い事、それはく一通りではありません、けれども一郎さんは少しも不平らしい様子もなく、流るゝ汗をふきふき、手傳つて居りました、又おちいさんと鍛冶屋を出てからドンく一所に行きますが一向無色の珠らしいものはありません、けれどもはじめの約束もありますので「ハイ」より他一言も云ふ事が出来ず、黙つてついてゆきますると、やがておちいさんは一郎さんの方を、クルリとむきまして、一郎さんの額から

流るゝ汗を見ながら。

『一郎さん、世の中に此の上とない貴い珠は、いまあなたの額の上を流れて  
ある汗の珠です』

と云ひますかと思へば、忽然として小さな白髯のおぢいさんの影はきえてなくなりました。

(終り)



# 會 告

來る十日午後一時半より東京女子師範  
學校附屬幼稚園に於て本會常會開會仕

候に付御繰合御出席相成度候

追て當日は左の講演有之筈に御座候

一學齡期に於ける傳染病に就いて

醫學士 唐 澤 光 德

明治四十三年十二月

フ レ ー ベ ル 會

## 幼兒 談話材料

定價 金四拾錢  
郵稅 金四 錢

坊間のお伽話は多くは小學校時代の子供には適して  
も幼兒には適さぬものです。是は本會に於て特に幼  
兒の爲めに編纂しましたのでおばさんやお母さんが  
幼兒のお伽には必要のものです。本書にない話は本  
書を標準として作話なさるとが出来ませう。

幼稚園  
小學校  
遊戲的

## 手 工 圖 形

定價 金五拾錢  
郵稅 金四 錢

是は幼稚園恩物の使用法を圖示したもので幼兒をし  
て造らしむ可きものと保姆の造りて與ふ可きものと  
を併せて載せてあります。

## 幼 稚 園 遊 戲

定價 金四拾錢  
郵稅 金四 錢

幼稚園に於ける共同遊戯を説明したものです。小學  
校の初年級や家庭に於ても頗る有用だらうと存じま  
す。

本會員の方にて右三書同時に御注文の  
力には合計代金郵稅共金壹圓に割引可  
致候

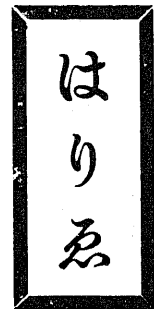
東 京 九 段 中 坂 上  
フ レ ー ー ル 館

營 業 課 目

幼 稚 園 用 恩 物	幼 稚 園 用 材 料	幼 稚 園 用 机 腰 掛	幼 稚 園 用 運 動 具	幼 稚 園 用 遊 戲 具	幼 稚 園 用 繪 畫 類	幼 稚 園 用 玩 具 類	幼 稚 園 用 書 籍 類	幼 稚 園 用 諸 表 簿 類	家 庭 教 育 資 料	學 校 用 品 類
-------------	-------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	-----------------	-------------	-----------

電 話 番 町 二 七 一  
振 替 口 座 東 京 一 九 六 四 〇

御 一 報 次 第 定 價 表 進 呈



定 價 三 十 錢  
送 料 三 個 迄 八 錢

之には左の色々のものが入つておつて初めは圖形ある臺紙に其の圖の通り打ち抜きたる紙を貼り水や木などを色筆でぬればきれいな繪が出来ます又少し上手になれば白臺紙に自ら圖形を工夫して貼るのです各の玩具には極上等でせう

- 一、 打抜二十七種
- 一、 十二色のローヒツ
- 一、 ピンセツト
- 一、 打抜を濕なす水皿  
内に布が入れてある
- 一、 印紙臺紙(種々考案した圖形を印刷しある臺紙)